

ご近所のお医者さん

□
466
□

やだクリニック院長 矢田克嗣さん 高石市

日本人とがん

「2人に1人、3人に1人」。これは何の数字でしょう。

答えは、がんに罹患する人と、がん死亡する人の割合です。今や日本人の死因の1番はがんです。私は医者になってから、この数字をいかに減らすかを考えながら、仕事をしてきました。

若い頃は
がんの研究
に励み、勤

務医時代は、がんの手術療法や抗がん剤治療、放射線治療など、がん治療と長年向き合ってきました。開業し



半数が罹患する時代に

た今は、早期のうちのがんを見つかることが患者さんを助けることにつながると考え、日々診療を行っています。

2人に1人が罹患する時代ですから、がんになることを避けるのはなかなか難しいものです。しかし、早期

に感染している人を見つけ、感染が確認された人を定期的に胃カメラ検査でフォローすることで、早期がんを発見できるようにしました。最近では、胃がんになってから手術を受ける人より、胃カメラで早期がんのうちに粘膜切除する人の方が多くなっています。

いずれ、がんは薬やワクチンで治る時代が来るかも知れません。

けれど
も、それま
ではがんで
命を落とす

人を一人でも減らすことが私の役目と考えて、日々診療に当たっています。

もちろん、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や、終末期を自宅で過ごしたいと希望する患者さんの在宅医療にも力を入れています。

今後も地域に密着した医療を実践することで、私を育ててくれたこの町に恩返しをして、健康なまちづくりに貢献していきたいと思っています。

特に胃がんに関しては、ピロリ菌との関連が知られています。ピロリ菌

発見と早期治療によって、がんで亡くなる可能性をぐっと下げることができます。患者さんには常々そうお話しし、私のクリニックでは、発生頻度の高い胃がんと肺がんの検診に加え、近くの病院と連携しながら、大腸がんや前立腺がんの治療も行っています。